

## 全身麻酔を経験して

獨協医大名譽教授（麻酔学）

東京麻酔専門医会名誉会員

緒方博丸

1

昭和三十三年東大麻酔科で麻酔を教えて頂いた以来、今まで数え切れない位全身麻酔をかけてきた。しかし全身麻酔にかかるとは、どういふものか全然しらなかった。この度ステントの手術で全身麻酔を都外某大病院で受ける身になった。全身麻酔でどうゆうものか、興味があつたが、自分自身に關した事なので、一抹の不安はあつたが、麻酔科医に全幅の信頼を置いて、手術場にむかつた。我々の時代では術前のatropineの投与は必須であつたが、atropineの注射はなかつた。気管の中にチューブを挿入するので、迷走神経反射をブロックする為に必要かと思つたが、今はしない事なので、おまかせにした。手術台に乗せられて血圧計を付けたりして、いよいよ導入が始まる頃、麻酔科医がプロポホルの5ml、動脈ラインは右手といっているのが聞こえて、いよいよこれか

ら始まるのだと思った。意識が無くなるとはどういう事なのか気がなった。しばらくして手術器具をがさがと揃えている音がしきりと聞こえてきた。いよいよ手術が始まるのだなと思った。又筋弛緩剤はこれから入れるのだと思っていた。筋弛緩剤が投与されるとどうなるのかが興味があった。挿管時は口を大きく開けられて、チューブが入るのだと思っていました。相変わらず手術器具をサラサラと揃えている音が聞こえてきた。しかし術者らの声は聞こえてこなかった。しばらくしてから、緒方さん、緒方さんという声が聞こえてきた、これから始まるのかと思った。緒方さん終わりましたよーという声が聞こえてきた。これから始まるのか思った。十五分位しか経ってない感じであった。実際は一時間と少し経っていた。筋弛緩剤の影響も、挿管の影響も全く感じないうちにオペは無事終了した。全十五分位の経過と感ぜられた。私の子供が臀部のオペを全身麻酔で受けた時も手術時間は十五分位の感じであったそうだ。ズーとしゃらしゃらした手術器具を揃えている音は聞こえましたが、術者らの人の声は全く聞こえませんでした。昔ごく浅い麻酔が流行した時に、手術中に先

生の声が聞こえたとかの患者さんからの訴えがあった事を聞きましたが、本当に声なのかどうかは解りません。抜管時は酸素だけなので、無麻酔の状態ですが、特別麻酔科医や術者らの声は全く聞こえて来ませんでした。手術器具を揃える音はしゃらしゃらと聞こえたのは、感音性の音は聞こえなかったが、手術器具が血管内に入る感じが伝音性として伝わって、その様に感じたのではないのでしょうか。真偽のほどは解りません。しかし手術中の言葉は慎むべきでしょう。以上が私の全身麻酔の経験談です。麻酔をかけて下さった先生方に紙上を借りて感謝いたします。